

会 議 録

名 称	平成 24 年度 第 5 回富士見市立図書館協議会
開催日時	平成 25 年 1 月 19 日（土）午前 10 時 00 分～12 時 00 分
開催場所	中央図書館 レセプション室
出席者	<p>○図書館協議会委員 高橋さかえ委員 上松恵美子委員 大澤茂和委員 矢沢靖子委員 小林恵子委員 高居正博委員 中沢佳珠代委員</p> <p>○教育委員会生涯学習課 金田課長 林図書館担当 古川図書館担当</p> <p>○事務局 根来中央図書館長 本間副館長 岩崎ふじみ野分館長 長谷川次期 鶴瀬西分館長</p>
欠席者	岩本喜直委員 内田弘委員 野村富雄委員
公開・非公開	公開（傍聴人なし）
次 第	<p>○委員長挨拶</p> <p>○報告連絡事項 図書館主催事業について</p> <p>○協議事項 「第 2 次富士見市子ども読書活動推進計画」について</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 次富士見市子ども読書活動推進計画（案） ・ 富士見市立図書館各館の開催事業報告（11 月～12 月） ・ 各館の広報誌 <ul style="list-style-type: none"> さざなみだより 12 月 1 月号 とびらしんぶん 12 月 1 月号 BOOK ADVENTURES 170 号 171 号 にこにこひろば 12 月 1 月号 つるせにししんぶん 45 号 46 号
会議録確認	高橋さかえ

議 事 内 容

○報告連絡事項

図書館主宰事業について

11月から12月の間で実施した開催事業について報告を行なった。

○協議事項

「第2次富士見市子ども読書活動推進計画」について、前回まで討議を行なった結果の意見を盛り込んで作成した計画（たたき台）を説明し、委員からの意見を求めた。

委 員：特別な支援を必要とする子どもたちへの取り組みに布絵本の作成講座があるが、いま図書館では布絵本を保有しているか。

図書館：現在は保有していない。

市：市販製品の購入もあるが、ボランティアの力を借り、手作りにより読書活動へ携わることで、少しずつ増やしてゆく考え方である。

委 員：広報紙の充実とは、現在行っているものより種類や部数を増やすということか。

市：毎月定例で作成しているものは続けていく。子ども読書月間などの、いろいろなシーンで広報を充実させていくことを考えている。

委 員：中高生の読書が課題だが、広報面ではどのような充実策を考えているか。

市：中高生向けに毎月ブック・アドベンチャーという冊子を作成し、各学校の図書室に配布している。配布方法の工夫のほか、内容面でも生徒の視点やかかわりを充実させたいと考えている。

委 員：子ども自身が編集に携わることか。

市：それも考えられる。中央館にあるYA意見箱に寄せられたイラストなどを掲載している。広報を作ることなどから人の輪が広がり、ヤングアダルトコーナーの充実や学校図書室の充実につながるようにしたいと考えている。

市：最近も学校教育だより「きんもくせい」に図書館職員の記事が掲載された。図書館や読書などの情報を身近なところで目に触れるよう模索している。

委 員：中学校でのブックトークは行っているのか。

市：今後行っていく新しい取り組みである。

委 員：つるせ台、ふじみ野小学校以外の学校図書館のコンピュータ化の計画はあるのか。

市：未定である。今後充実させたいと考えている。

委 員：小学校では夏休み、冬休みの前にブックリストが家庭向けに配布されている。重ならないよう調整してほしい。

委員長：学校で作ったものとは違うようだ。課題図書でもない。

市：利用者懇談会で、本の紹介を充実して欲しいという意見があった。年齢別、発達段階別などに沿った本の紹介ができるブックリストの発行を考えている。

委員：ブックスタートは12ヶ月検診の際に全家庭に配布しているのではないか。

市：検診に来ない人もおり、全家庭への浸透を目指している。

委員：図書館に来られない点で利用格差が生じている。そういう人に向けた取り組みをもう少し踏み込んで記載したほうが良い。たとえばコミュニティセンターや公共施設への図書室や図書コーナーの設置。バスツアーで学校が団体に図書館に来られる機会を作るなども考えられる。

市：「楽しい本のお届け便」や関連機関との連携会議を計画に載せた。その実践と、関係者との意見交換などを通じて、遠い地域での読書環境の充実の具体策につなげたいと考えている。

委員：いろいろな本から選ぶようなことは配本だけではカバーできない。交通網を充実させ、図書館に来て本を選べる環境づくりをすることが必要。たとえば回数券を配布するなど、具体的に踏み込んだ検討も必要。政策会議でも伝えて欲しい。

市：交通網は図書館にとどまらない課題と考えている。路線充実は財政面でもどこに重点を置くか選択が必要。多くの本から選べる環境づくりは必要と考えている。

市：学校の蔵書の刷新には長い時間がかかる。また一斉に全ての施設の充実を図ることも難しい。そのような状況の中で、「楽しい本のお届け便」事業などにより、子どもたちが普段過ごす学校という場で、少しでも多くの本と触れ合う機会ができるようにと考えている。

委員：計画発行時には、おおよその実施時期や施策の優先順や理由などを明確にしてほしい。蔵書の充実は大きな予算額が必要なので、本のデータベース化を進め、学校間で相互利用できれば現在の本を活用できるので重点的に実施して欲しい。布絵本などは中学の手芸クラブなどへ依頼することで、相互にメリットもあり、さらに交流が生まれると思う。

委員：誰がどうかかわり具体化するのかなど、実行計画が見えるようにしてほしい。ブックスタートは本に対して親子ともに興味を向かせられるので良い。小学生の内に読書になじませるのが読書活動の基本と思う。小学校にもっと力を入れ、ブックリストなどの配布だけでなく、多少強制性を持たせる意味で読書感想文などを求められるような指導も必要。

委員：計画としては言うことなし。読み聞かせ、ブックトーク、調べ学習から始めて、布絵本などを子どもたちに作ってもらうことは良い。調べ学習は一人でやるものだが、グループでやることなども必要なものと思う。

市：布絵本の作成に子どもたちにも参加してもらえれば、図書館の仕事にも関

心を持ってもらえる。参考にしたい。

委員：蔵書面では修理についても考える必要がある。図書館や整理委員だけでは対応は難しく、ボランティアをどう確保してゆくかも必要。小学生への読み聞かせでは、子どもが読みたい本と親が読ませたい本との違いもある。教育的効果を書く必要があると思う。中高生に対する読書推進の取り組みではそのための時間が確保できるかが重要と思う。

市：各学校では朝読書など事情に合わせて読書活動を進めている。中高生の読書推進も学校と協力して進めたい。

委員：中学校では図書室はほとんど利用されていない。部活などで忙しく利用時間がないのが現実。整備しても利用されないことについて考える必要がある。

市：学校図書館の利用時間の拡大、整理委員の充実、図書館の協力体制の確立などにより利用促進を図れればと考えている。

図書館：計画はかなり具体的になってきた。限られた資源の中での実施のため、市と相談して進めていきたい。

図書館：他の自治体ではブックスタートに来られない方へ、保健所の方が虐待とか家庭環境の確認もかねて個別訪問を行っていた。

市：富士見市では同様に母子推進委員が訪問している。そこにブックスタートの趣旨をどう組み込めるかは課題と思っている。

市：これまで計画の進行についての連絡会議などはなかった。今後は計画で示したような恒常的な組織を作り、連携を深めながら進めていく。推進の中心は生涯学習課図書館担当と図書館になると考えている。

委員：図書館の役割は大きいですが、図書館職員だけで行うのは困難と思われる。「楽しい本のお届け便」を行なうにもボランティアが必要。具体的に進めて行くために①ボランティア募集を継続してゆく②活動を継続して維持してゆく③研修を充実させ質の向上を図っていくことが必要だろう。

次回開催日

平成 25 年 3 月 16 日（土）10:00 から